



大学卒業後の進路

- 1 大学卒業後の進路の準備・活動開始時期
- 2 大学卒業後の進路の決定・検討状況
- 3 大学卒業後の決定（内定）した進路と希望する進路
- 4 大学卒業後の進路の決定・検討のために活用したもの

お茶の水女子大学 准教授 望月 由起

1 大学卒業後の進路の準備・活動開始時期

大学卒業後の進路の準備・活動開始時期は、予定も含めると、男女ともに「大学3年生の後期」がおおよそ3割と最も多い。ただし、1・2年生では「大学3年生の前期」が最も多く、予定に比べると実際の開始時期が先送りされている傾向がうかがえた。「医・薬・保健」学部では、4年生以降に開始する学生も目立つ。

大学生は、就職や大学院進学といった大学卒業後の進路に向けた準備・活動をいつ頃から始めようと思っているのだろうか。すでに準備を始めていたり、活動を終了した学生は、いつ頃から開始したのだろうか。

本項では、大学卒業後の進路の準備・活動開始時期について、性別・学年別・学部系統別の視点からそれぞれみていく。

男女問わず、おおよそ3割が「大学3年生の後期」に準備・活動を開始

「大学卒業後の進路の準備・活動開始時期」を全体的にみると、「大学3年生の後期」が最も多く29.7%を占めている。それに「大学3年生の前期」16.4%、「大学3年生の夏休み」12.5%などが続いており、おおよそ6割の学生が、大学3年生になって、大学卒業後の進路に向けた準備・活動を始めている（始めようと思っている）（図5-1-1）。

性別にみると、男女ともに「大学3年生の後期」が最も多く、おおよそ3割を占めている。男女ともに「大学3年生の前期」「大学3年生の夏休み」がそれに続いており、いずれの段階でも大きな男女差はみられない。

予定では「大学3年生の前期」に、実際には「大学3年生の後期」に開始

「大学卒業後の進路の準備・活動開始時期」を学年別に示したグラフが図5-1-2であ

る。1年生や2年生では「大学3年生の前期」が最も多い（それぞれ22.5%、23.4%）。「大学3年生の後期」が全体では最も多くおおよそ3割を占めていたが、1年生では11.9%、2年生でも20.8%にとどまっている。一方、3年生と4年生では「大学3年生の後期」が明らかに多く、3年生45.9%、4年生40.1%に及んでいる。

調査時期（11月）からみると、3・4年生にとっての「大学3年生の後期」は準備・活動を実際に開始した時期である可能性が高い。1・2年生の意識が高い可能性も否定できないが、予定に比べると、実際に準備・活動を開始する時期は先送りされる傾向がうかがえる。

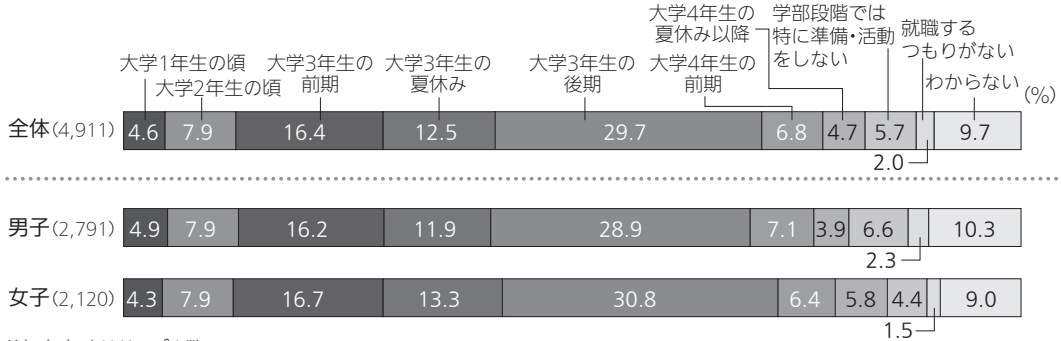
「医・薬・保健」学部で目立つ「4年生以降に準備・活動を開始する学生」

図5-1-3は「大学卒業後の進路の準備・活動開始時期」を学部系統別に示した表である。多くの学部系統では「大学3年生の後期」が最も多く3割程度を占めているが、「医・薬・保健」では、「大学4年生の前期」16.4%、「大学4年生の夏休み以降」21.6%、「学部段階では特に準備・活動をしない」14.4%など4年生以降に準備・活動を開始する学生が多く、他の学部系統とは明らかに異なる傾向が示されている。



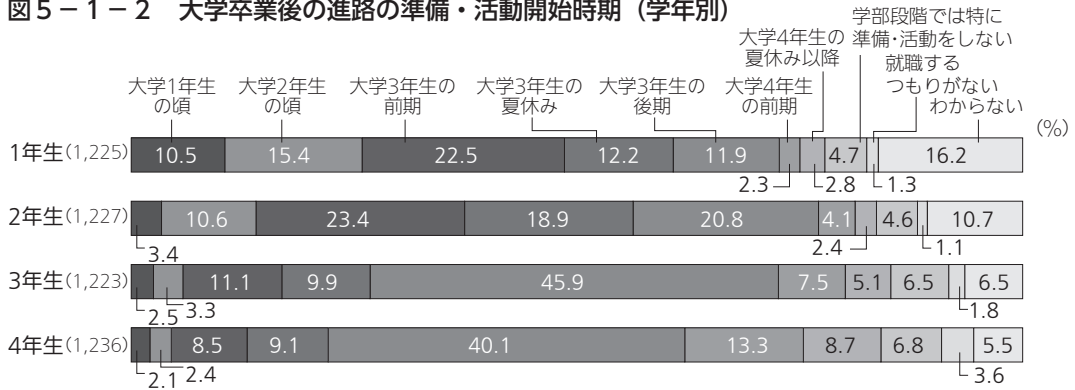
大学卒業後の進路（就職、大学院進学等を含む）に向けた準備・活動をいつ頃から始めようと考えていますか（あるいはいつ頃から始めましたか）。あてはまるもの1つをお選びください。

図5-1-1 大学卒業後の進路の準備・活動開始時期（全体・性別）



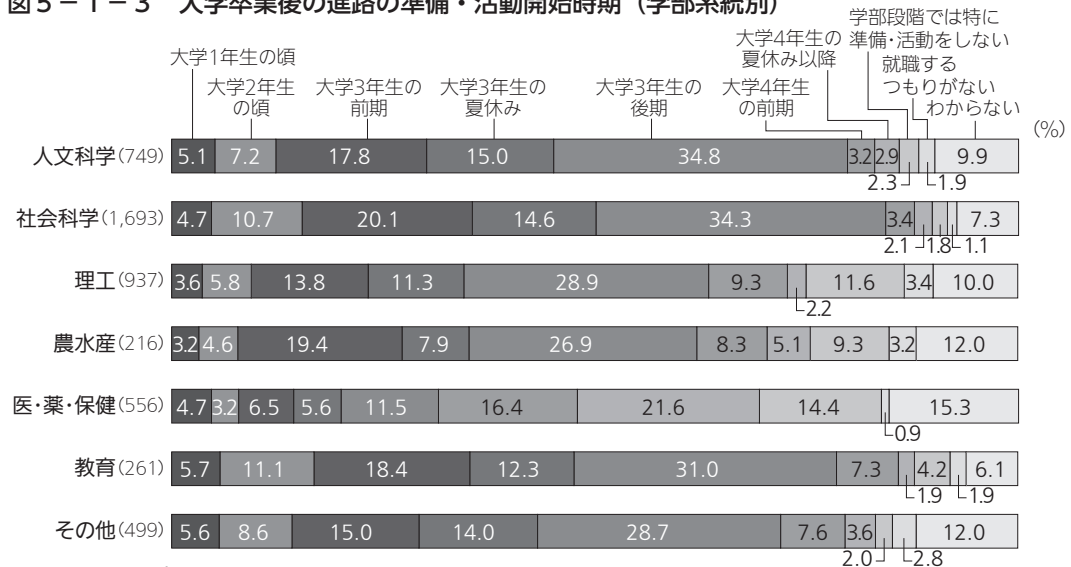
注（ ）内はサンプル数。

図5-1-2 大学卒業後の進路の準備・活動開始時期（学年別）



注（ ）内はサンプル数。

図5-1-3 大学卒業後の進路の準備・活動開始時期（学部系統別）



注（ ）内はサンプル数。

2 大学卒業後の進路の決定・検討状況

調査時期（11月）には、未内定の状態で希望進路に向けて準備・活動をしている3年生と4年生が少なからず混在している。1年生のおよそ4割は「希望進路について、まだ考えていない」が、女子学生や「医・薬・保健」「教育」学部系統の学生は、大学卒業後の進路を考え始めた時期が早い。

3年生と4年生の準備・活動時期の重なり

図5-1-4は、学年別に「大学卒業後の進路の決定・検討状況」を示したグラフである。3年生では「進路は内定しておらず、希望進路の実現に向けて準備・活動中である」が41.7%と大幅に増えている（2年生に比べ25.7ポイント増）。この回答は4年生の24.1%でもみられることから、この時期は、未内定の状態で希望進路の実現に向けて準備・活動を行っている3年生と4年生が少なからず混在している時期といえよう。

大学卒業後の進路を考え始めたのが早いのは、女子学生や「医・薬・保健」「教育」

図5-1-4からは、1年生の38.8%が「希

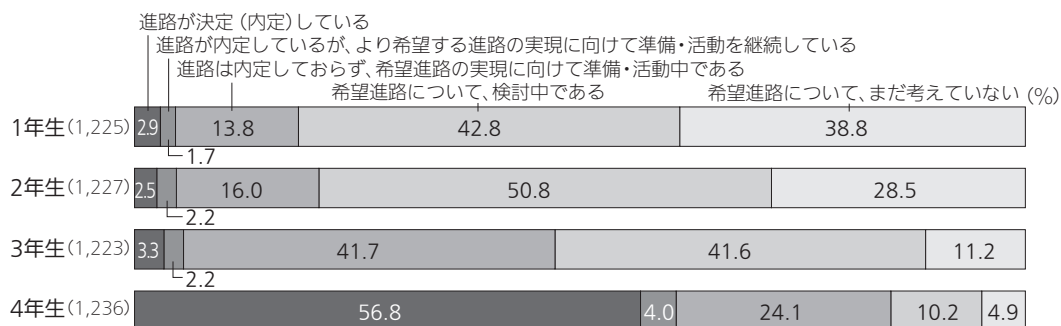
望進路について、まだ考えていない」ことがわかる。この結果を「多い」とみるか「少ない」とみるかの解釈は分かれるところであろうが、いずれにせよ裏を返せば、1年生のおよそ6割は希望進路について検討中であったり、準備・活動を行っていたり、すでに決定（内定）をしているといえるだろう。

こうした状態にある学生は、大学卒業後の進路をいつ頃から考え始めたのだろうか。「大学卒業後の進路を考え始めた時期」を性別に示したグラフが図5-1-5、学部系統別に示した表が表5-1-1である。男子学生に比べて女子学生が、学部系統別にみれば「医・薬・保健」や「教育」の学生が、大学卒業後の進路を考え始めた時期が早いことがわかる。



大学卒業後の進路（就職、大学院進学等を含む）の決定・検討状況について、あてはまるもの1つをお選びください。

図5-1-4 大学卒業後の進路の決定・検討状況（学年別）



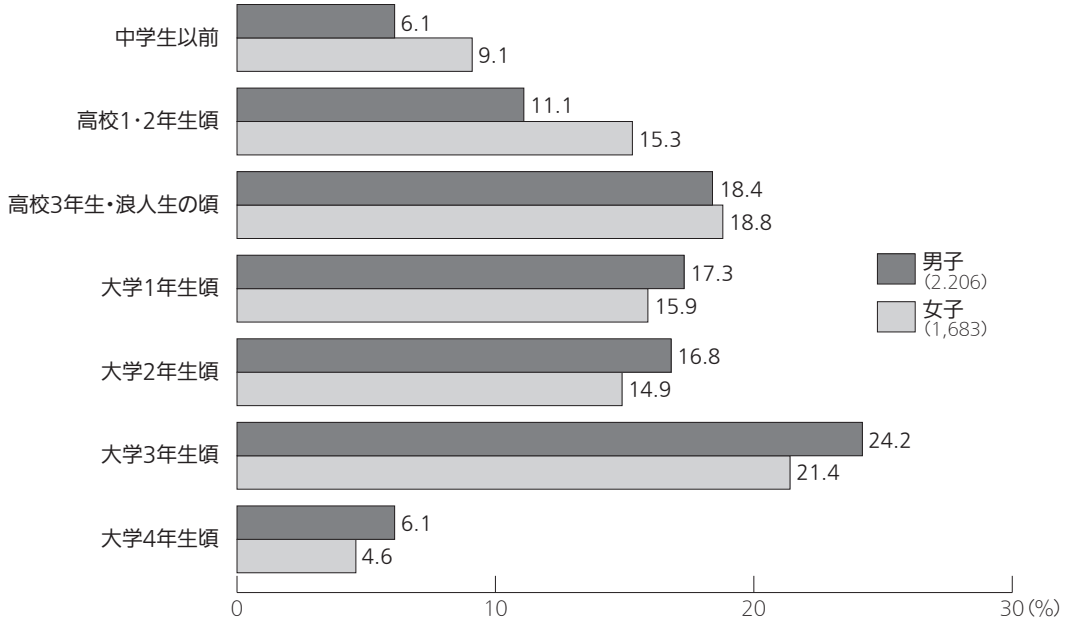
注) ()内はサンプル数。



(「希望進路について、まだ考えていない」以外に回答した人を対象)

大学卒業後の進路を、いつ頃から考え始めましたか。あてはまるもの1つをお選びください。

図5-1-5 大学卒業後の進路を考え始めた時期（性別）



注1) 対象は「大学卒業後の進路（就職、大学院進学者等を含む）の決定・検討状況」について「希望進路について、まだ考えていない」と回答した人を除いた3,889名。表5-1-2も同じ。

注2) ()内はサンプル数。

表5-1-1 大学卒業後の進路を考え始めた時期（学部系統別）

	全体 (3,889)	人文科学 (582)	社会科学 (1,360)	理工 (731)	農水産 (177)	医・薬・保健 (418)	教育 (230)	その他 (391)
中学生以前	7.4	5.7	5.5	4.4	8.5	11.5	20.0	10.0
高校1・2年生頃	12.9	11.9	11.3	9.8	11.3	20.8	21.7	12.8
高校3年生・浪人生の頃	18.6	15.5	16.3	20.0	17.5	26.8	23.5	17.9
大学1年生頃	16.7	17.4	17.9	18.6	18.1	13.6	8.3	15.6
大学2年生頃	15.9	17.5	17.9	16.7	16.9	11.0	8.7	14.6
大学3年生頃	23.0	26.3	26.3	24.9	23.2	10.0	13.9	22.5
大学4年生頃	5.4	5.8	4.9	5.6	4.5	6.2	3.9	6.6

注1) ○は全体よりも5ポイント以上、●は10ポイント以上高いものを示す。

注2) ()内はサンプル数。

3 大学卒業後の決定（内定）した進路と希望する進路

決定（内定）進路・希望進路ともに民間企業（正社員）が最も多く、男女ともにおよそ6割に及んでいる。大学院進学や専門職では、その状況に性差がみられた（大学院進学は男子が、専門職は女子が多い）。学部系統により、希望する進路の傾向も異なっている。

大学生は、大学卒業後にどのような進路に決定（内定）しているのだろうか。考えてはいるがまだ決定（内定）していないような学生は、どのような進路を希望しているのだろうか。

本項では、大学卒業後の決定（内定）進路と希望進路について、性別・学部系統別の視点からみていく。

民間企業に正社員として就職する学生がおよそ6割

まずは、大学卒業後の進路が決定（内定）した学生の進路をみていこう。

図5-1-6は、進路が決定（内定）している学生を対象に「大学卒業後の進路の決定（内定）先」を降順に示したグラフである。「民間企業（正社員）」が最も多く57.7%を占め、「現在の大学の大学院に進学」13.3%、「教員・医師・弁護士などの専門職」12.5%、「公務員（正規職員）」8.0%、「他大学の大学院に進学」3.1%がそれに続いている。

その一方で、「自営業」「契約・派遣社員、アルバイト」「他大学・専門学校に再入学・編入」「NPO・NGOなど非営利組織」「資格取得、公務員・専門職試験受験の勉強に専念」「海外の大学に留学」はいずれも極めて少なく1%未満である。

大学院進学は男子学生が、専門職や公務員には女子学生が多く決定（内定）

こうした結果には、性別による違いもみら

れる。「大学卒業後の進路の決定（内定）先」を性別に示したグラフが図5-1-7である。「民間企業（正社員）」は男女ともに最も多くおよそ6割を占めているが、「現在の大学の大学院に進学」は男子学生19.6%に対し、女子学生は5.1%に過ぎない。「他大学の大学院に進学」でも男子学生4.1%に対し、女子学生は1.7%にとどまっていることから、大学院進学の決定（内定）状況には性別による違い（男子>女子）があることがわかる。

その一方で、「教員・医師・弁護士などの専門職」は女子学生17.4%に対し、男子学生は8.7%に過ぎない。同様に、「公務員（正規職員）」でも女子学生8.9%に対して男子学生は7.4%であることから、教員・医師・弁護士などの専門職や公務員（正規職員）の決定（内定）状況には、性別による違い（男子<女子）があるものと思われる。

「公務員」「専門職」「他大学の大学院に進学」では、決定（内定）と希望の状況にギャップ

続いて、大学卒業後の進路を考えてはいるが、まだ決定（内定）していない学生が希望している進路についてもみていこう。

図5-1-8は、大学卒業後の進路を考えてはいるが、まだ決定（内定）していない学生を対象に「大学卒業後に希望する進路」を複数回答可としたたずね、その結果を降順に示したグラフである。

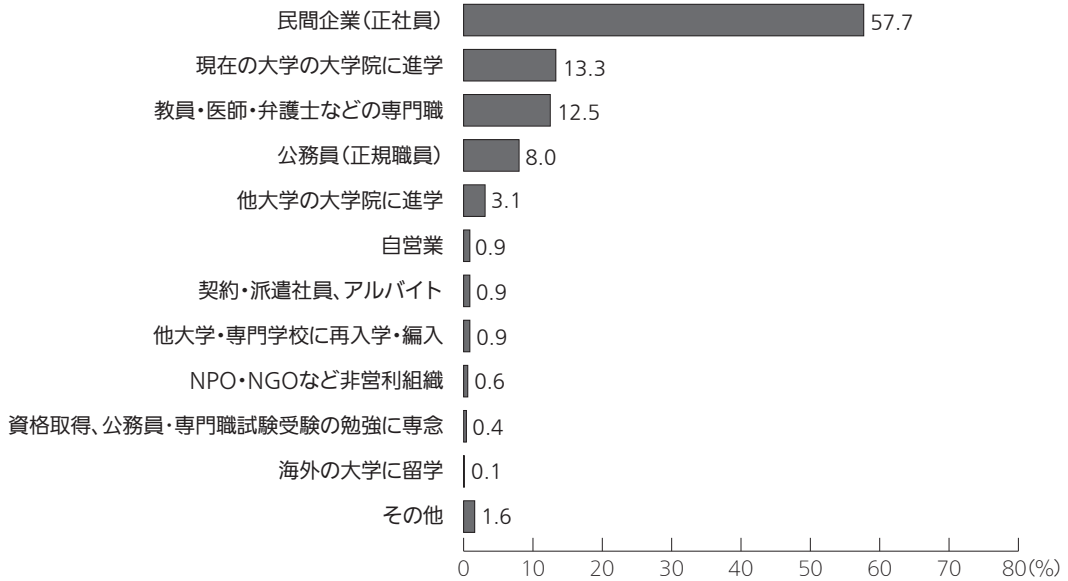
「民間企業」が最も多く59.0%を占めてお



(「進路が決定(内定)している」と回答した人を対象)

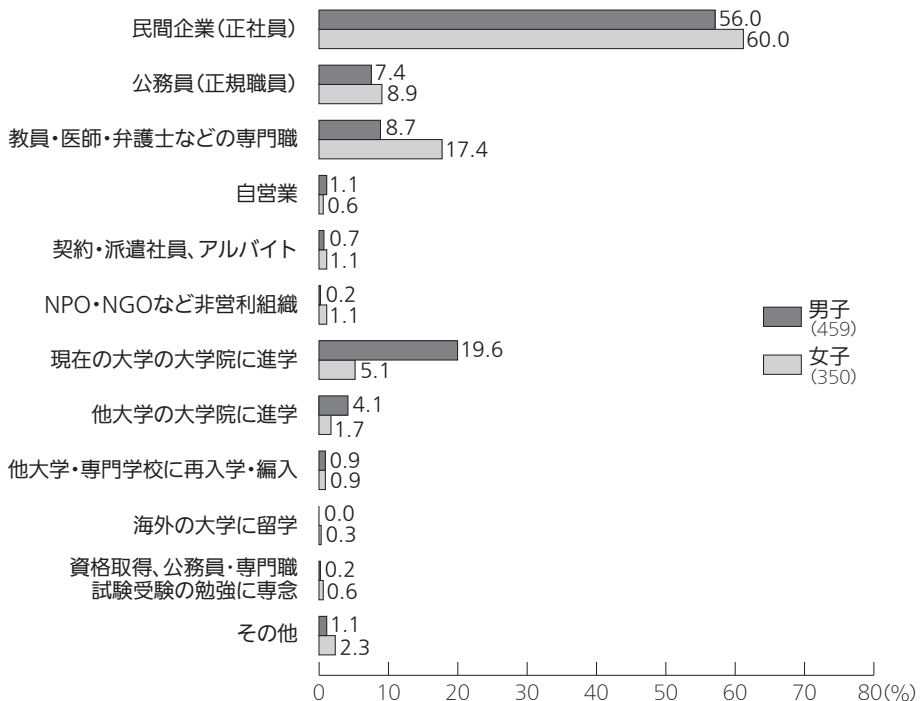
どのような進路に決定(内定)していますか。あてはまるもの1つをお選びください。

図5-1-6 大学卒業後の進路の決定(内定)先(全体)



注) 対象は、「大学卒業後の進路(就職、大学院進学等を含む)の決定・検討状況」について「進路が決定(内定)している」と回答した809名。

図5-1-7 大学卒業後の進路の決定(内定)先(性別)



注) 対象は、「大学卒業後の進路(就職、大学院進学等を含む)の決定・検討状況」について「進路が決定(内定)している」と回答した809名。

り、「公務員」32.9%、「教員・医師・弁護士などの専門職」22.8%、「現在の大学の大学院に進学」12.9%、「他大学の大学院に進学」11.6%がそれに続いている。

すでに進路が決定（内定）した学生と比べると（図5-1-6参照）、「公務員」（24.9ポイント差）、「教員・医師・弁護士などの専門職」（10.3ポイント差）、「他大学の大学院に進学」（8.5ポイント差）などで大きなギャップがみられた。

また、「自営業」「契約・派遣社員、アルバイト」「他大学・専門学校に再入学・編入」「NPO・NGOなど非営利組織」「資格取得、公務員・専門職試験受験の勉強に専念」「海外の大学に留学」に決定（内定）している学生はいずれも1%未満であったが、希望する進路としては「資格取得、公務員・専門職試験受験の勉強に専念」6.1%、「自営業」4.7%、「NPO・NGOなど非営利組織」4.5%であり、希望レベルではこれらの進路を視野に入れている学生も少なからずいることがうかがえる。

大学院進学や公務員は男子学生が、専門職は女子学生が多く希望

こうした傾向には、性別による違いもみられる。「大学卒業後に希望する進路」を性別に示したグラフが図5-1-9である。「民間企業」は男女ともに最も多くおよそ6割を占めるが、「現在の大学の大学院に進学」は男子学生16.4%に対し、女子学生は8.3%に過ぎない。「他大学の大学院に進学」でも

男子学生13.7%に対し、女子学生は8.9%にとどまっていることから、大学院進学の希望には、決定（内定）状況と同様に、性別による違い（男子>女子）があるものと思われる。

その一方で、「教員・医師・弁護士などの専門職」は女子学生29.3%に対し、男子学生は17.8%にとどまっていることから、これらの専門職の希望には、決定（内定）状況と同様に、性別による違い（女子>男子）がうかがえる。

「公務員」は、決定（内定）と希望の状況で傾向が異なっており、決定（内定）状況では「男子<女子」であったが（図5-1-7参照）、希望状況では男子学生35.0%に対して女子学生は30.0%とやや少ない。

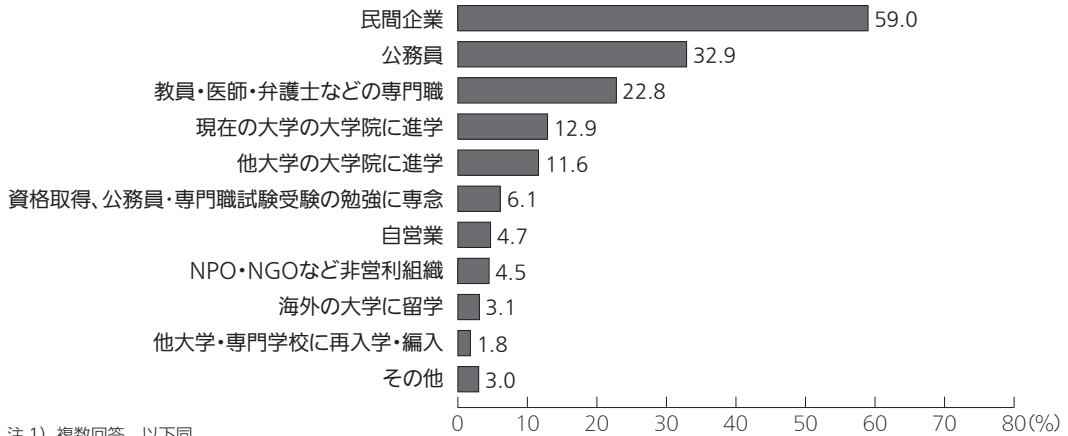
学部系統による希望進路の違い

「大学卒業後に希望する進路」の傾向には、学部系統による違いもみられる。「大学卒業後に希望する進路」を学部系統別に示した表が表5-1-2である。「民間企業」は全体では59.0%であるが、「社会科学」では73.0%、「人文科学」では66.7%と他の学部系統に比べて多い。「教員・医師・弁護士などの専門職」は全体では22.8%であるが、「教育」では74.2%、「医・薬・保健」では70.1%と他の学部系統に比べて顕著に多い。「現在の大学の大学院に進学」は全体では12.9%であるが、「理工」では35.3%、「農水産」では25.4%と他の学部系統に比べて目立つ。「理工」は「他大学の大学院に進学」も26.8%と多い。



(「進路が決定(内定)している」「希望進路についてまだ何も考えていない」以外に回答した人を対象)
**大学卒業後はどのような進路を希望していますか。あてはまるものすべてを
 お選びください。**

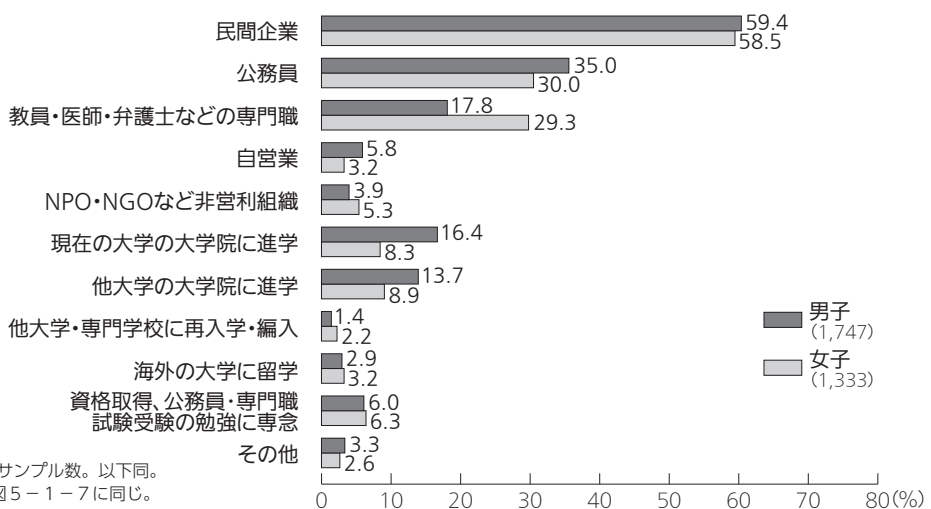
図5-1-8 大学卒業後に希望する進路 (全体)



注1) 複数回答。以下同。

注2) 対象は、「大学卒業後の進路(就職、大学院進学等を含む)の決定・検討状況」について準備・活動中または検討中と回答した3,080名(「進路が決定(内定)している」「希望進路についてまだ何も考えていない」と回答した人以外)。

図5-1-9 大学卒業後に希望する進路 (性別)



注1) () 内はサンプル数。以下同。

注2) 対象は、図5-1-7に同じ。

表5-1-2 大学卒業後に希望する進路 (学部系統別)

	全体 (3,080)	人文科学 (471)	社会科学 (1,076)	理工 (552)	農水産 (138)	医・薬・保健 (331)	教育 (186)	その他 (326)
民間企業	59.0	66.7	73.0	58.9	53.6	19.0	26.9	63.2
公務員	32.9	35.2	41.2	29.0	37.0	18.1	30.1	23.3
教員・医師・弁護士などの専門職	22.8	15.7	9.5	8.2	23.9	70.1	74.2	23.9
自営業	4.7	4.2	6.3	3.4	5.1	1.8	1.1	6.7
NPO・NGOなど非営利組織	4.5	5.3	6.4	1.3	5.8	3.0	3.8	4.0
現在の大学の大学院に進学	12.9	8.7	4.6	35.3	25.4	9.1	6.5	10.4
他大学の大学院に進学	11.6	10.0	6.9	26.8	15.9	8.8	5.9	8.3
他大学・専門学校に再入学・編入	1.8	4.2	1.1	0.9	1.4	1.8	0.5	2.5
海外の大学に留学	3.1	3.2	2.3	3.1	3.6	3.0	1.1	6.1
資格取得、公務員・専門職試験受験の勉強に専念	6.1	4.9	6.9	4.3	3.6	8.2	3.8	8.6
その他	3.0	3.8	3.3	2.0	0.7	2.1	2.2	4.9

注1) ○は全体よりも5ポイント以上、●は10ポイント以上高いものを示す。注2) 対象は、図5-1-7に同じ。

4 大学卒業後の進路の決定・検討のために活用したものの

全体的にみると学内外の諸支援の活用の高さといえないが、大学でのキャリア形成支援や進路・就職相談の活用率は3年生で大幅に上がっている。学内の支援は女子学生の方が、学外の支援は男子学生の方が活用している傾向もみられた。

大学生は、大学卒業後の進路の決定・検討のために、どのようなものを活用しているのだろうか。

本項では、大学卒業後の進路の決定・検討のために活用したものについて、本調査の結果にもとづき、学年別の視点からみていく。

学外機関の支援をはじめとして、全体的に活用的高度が高いとはいえない

図5-1-10は、「大学卒業後の進路の決定・検討のために活用したもの」について、それぞれ「よく活用している」「たまに活用している」「あまり活用したことがない」「活用したことがない」から1つ回答を求めた結果を示したグラフである。

全体的に活用的高度が高いとはいえず、「資格や公務員試験のためのスクールや予備校」「大学外の、企業への就職活動対策のための講座やスクール・予備校」「企業・学校・官公庁等へのインターンシップ（職務体験、就労実習などを含む）」といった学外の機関の支援については、「活用したことがない」がいずれも6割を超えている（それぞれ68.3%、67.1%、62.0%）。

大学でのキャリア形成支援や進路・就職相談の活用率は、3年生で大幅に上がる

こうした傾向には、学年差もみられる。「大学卒業後の進路の決定・検討のために活用したもの」について、「よく活用している」と「た

まに活用している」の合計（以降、活用率とする）を学年別に示したグラフが図5-1-11である。

全体的にみて、1・2年生に比べると3・4年生の活用率は高い。3年生になると「大学での、単位の出ないキャリア形成支援（就職関連講座・セミナー・ガイダンスなど）」は48.2%、「大学での、単位の出るキャリア形成科目（自己理解・人生設計などに関する授業）」36.6%、「大学での、進路・就職相談」32.4%に及んでいる。中でも「大学での、単位の出ないキャリア形成支援」「大学での、進路・就職相談」は2年生と3年生での活用率の違いが明らかにみられた（それぞれ29.9ポイント差、19.5ポイント差）。

3年生と4年生での活用傾向にも違いがみられる。「大学での、単位の出るキャリア形成科目」「大学での、単位の出ないキャリア形成支援」「企業・学校・官公庁等へのインターンシップ」などは3年生の方が活用率が高いのに対し（それぞれ6.8ポイント差、6.9ポイント差、3.1ポイント差）、「大学での、進路・就職相談」「大学外の、企業への就職活動対策のための講座やスクール・予備校」は4年生の方が活用率が高い（それぞれ5.0ポイント差、0.4ポイント差）。



大学卒業後の進路の決定・検討のために、以下をどの程度、活用してきましたか。それぞれ、あてはまるもの1つをお選びください。

図5-1-10 大学卒業後の進路の決定・検討のために活用したもの（全体）

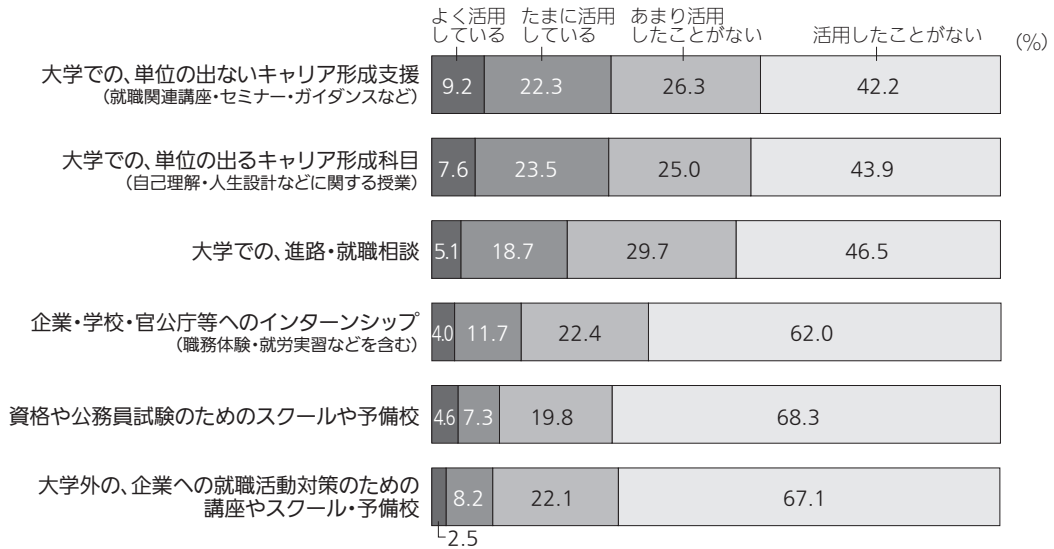
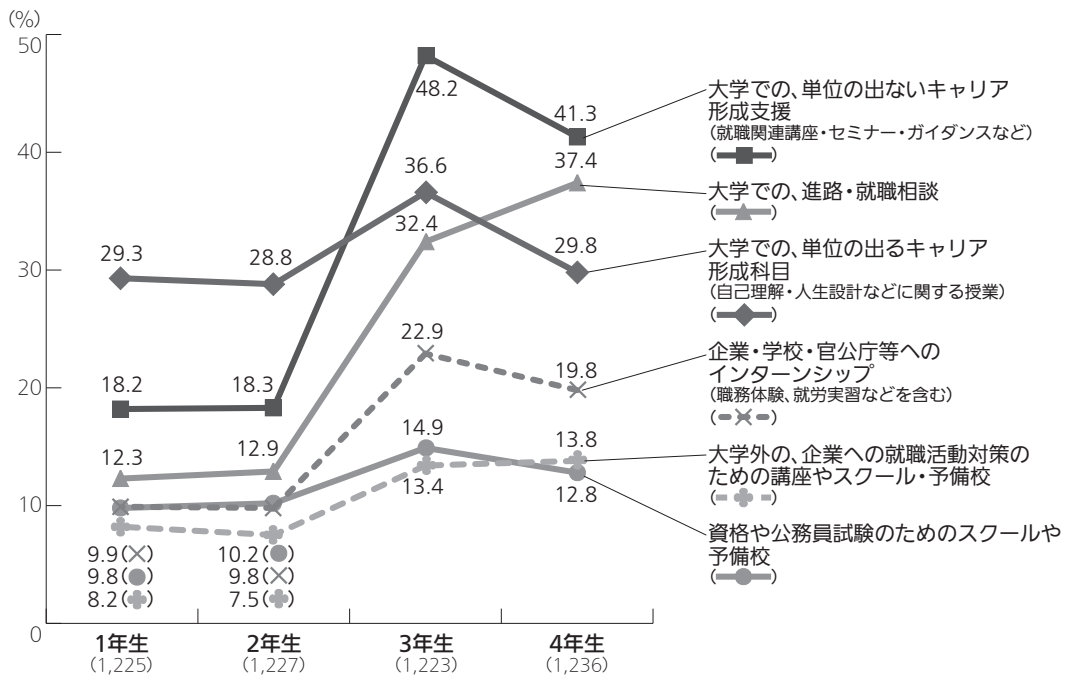


図5-1-11 大学卒業後の進路の決定・検討のために活用したもの（学年別）



注1) 「よく活用している」＋「たまに活用している」の％。
注2) () 内はサンプル数。